



Integrated Report 2024

SUMINOE GROUP
統合報告書



SUMINOE
GROUP

VISION

わたしたちの目指す未来
時代や地球と調和する「新しい快適のスタンダード」を織りあげ
よろこび広がる未来の暮らしをつくる。

MISSION

わたしたちが果たすべき使命
暮らしに寄り添う技術とアイデアで人と社会にやさしい空間を世界中へ。

SPIRIT

わたしたちが大切にしている価値観(社訓)
業界の先駆者としての誇りを持ち、和協、誠実、不屈の精神をつらぬく。

VALUE

事業活動の基本指針

SUMINOE “4C” Values

Challenge

業界の先駆者としての高度な技術力と幅広い顧客基盤を礎に、新たな事業展開にチャレンジする。

Create

独自の技術を掛け合わせ、新しい価値を創造する。

Customer

顧客に誠実に寄り添う力と先見性をもとに、新たな課題を抽出し開発に活かす。

Contribute

人にも地球にもやさしいモノづくりをこれからも追求し続ける。

企業行動規範

1. 法令その他の社会的規範を遵守し、公正で健全な企業活動を行います。
2. よい製品を生産し、販売し、社会の向上に貢献します。
3. 従業員の人格と健康・安全に配慮し、従業員を公正に処遇します。
4. ステークホルダー(利害関係人)との関係を尊重します。
5. 良き「企業市民」として積極的に地域社会に貢献します。
6. 地球環境への影響を重視し、環境保全に取り組めます。



幅広いステークホルダーのみなさまに、SUMINOE GROUPが中長期的にどのように価値を創造し、企業価値向上に向けた取り組みを行っていくのかについてお伝えするため、「統合報告書」を発行しています。

本報告書は、SUMINOE GROUPの持続的な成長に向けた経営戦略や事業概況、業績などの財務情報と、サステナビリティやESGに関する具体的な取り組みなどの非財務情報を総合的に報告することで、当社グループへの理解を深めていただくことを目的として発行しています。

参考としたガイドライン

- ISO26000(社会的責任に関する手引)
- 経済産業省:「価値協創ガイダンス」
- 国際統合報告評議会(IIRC):「国際統合報告フレームワーク」

報告対象範囲

住江織物(株)ならびに国内外の連結対象子会社
ただし、項目により対象範囲が異なります。

報告対象期間

2023年度(2023年6月~2024年5月)
ただし、一部対象期間外の活動も含まれます。

情報開示体系

財務情報	非財務情報
統合報告書(冊子・web)	
<ul style="list-style-type: none"> ・webサイト「IR情報」 ・決算短信 ・事業報告書 	<ul style="list-style-type: none"> ・webサイト「サステナビリティ」 ・コーポレートガバナンスに関する報告書
有価証券報告書	

将来見通しに関する注意事項

本報告書に掲載されている現在の計画、戦略、判断などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績などに関する見通しです。これらは当社グループが現在入手可能な情報をもとにした仮定・判断によるため、リスクや不確定な要因を含んでいます。したがって、将来公表される業績などは、様々な要因により見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき願います。

SUMINOE GROUPを知る

- グループ理念 01
- 編集方針、目次 02
- 数字で見るSUMINOE GROUP 03
- 価値創造の歩み 05

価値創造ストーリー

- 社長メッセージ 07
- 中長期経営目標 11
- マテリアリティ特定 15
- 価値創造プロセス 19

事業・財務戦略

- セグメント情報 21
- 事業別戦略：インテリア事業 23
- 事業別戦略：自動車・車両内装事業(自動車内装事業) 25
- 事業別戦略：自動車・車両内装事業(車両内装事業) 27
- 事業別戦略：機能資材事業 29
- 海外事業・戦略統括 31
- 研究・技術開発戦略 33
- 財務に関する担当役員メッセージ 35

サステナビリティ

- サステナビリティとESGへの取り組み 37
- 環境 39
- 社会 45
- SUMINOE GROUPグループ理念の浸透 51
- ガバナンス 53
- 社長×社外取締役対談 61

データセクション

- 役員一覧 65
- 11ヵ年連結財務サマリー 67
- 会社概要・投資家情報 69

補足事項

1. 当社は、2024年8月29日開催の第135回定時株主総会での決議を経て、2024年12月2日付で「住江織物株式会社」から「SUMINOE株式会社」に商号変更いたします。ただし、本報告書では報告対象期間の商号として「住江織物株式会社」を適用しています。
2. 本報告書では、2023年6月発表のグループ理念・グループ統一ロゴに合わせ、「SUMINOE GROUP」の表記を用いています。一部、2023年6月以前に公表した文書に関連する部分は、従来どおり「住江織物グループ」と表記しています。

At a Glance

創業

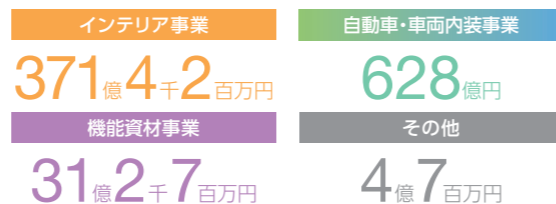
1883年(明治16年)

資本金(2024年5月末時点)

95億5千4百万円

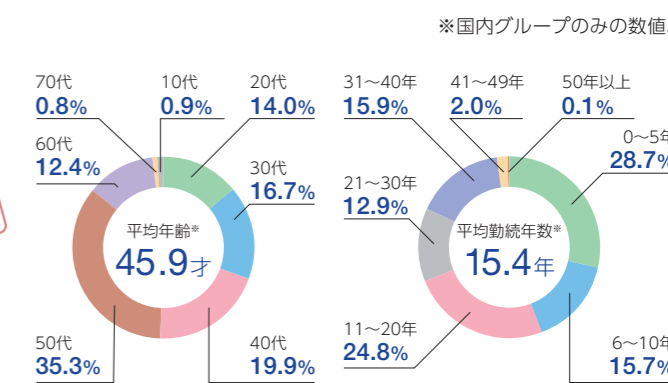
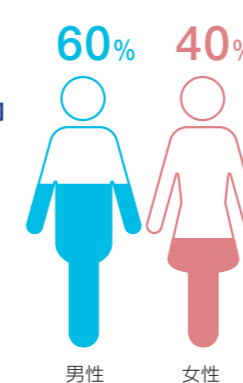
売上高(2024年5月期)

1,034億7千8百万円



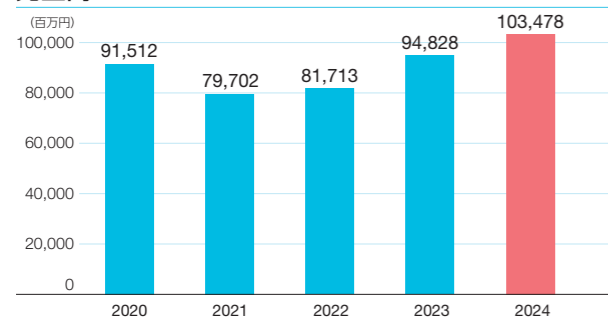
従業員数(2024年5月末時点)

2,812名



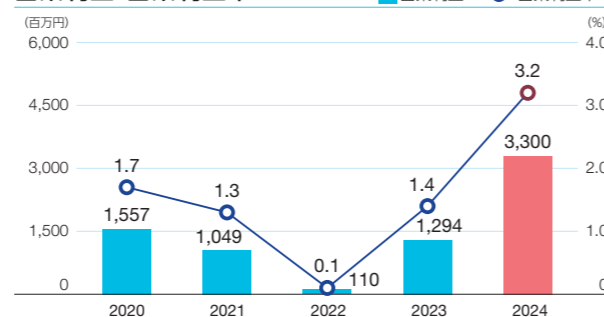
財務データ(各年5月期)

売上高



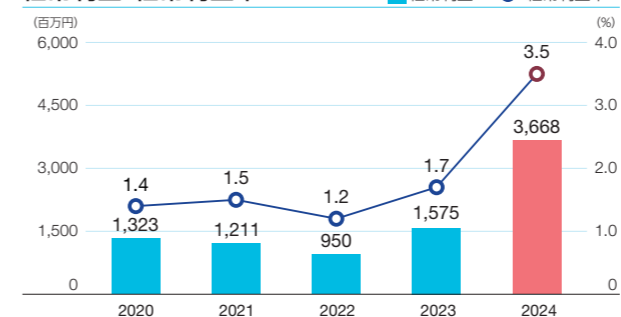
コロナ禍で減少傾向が続いていましたが、当期は海外展開を本格化させた2003年以降で最高額を更新しました。

営業利益・営業利益率



北中米拠点での事業再編が成功するとともに適切な価格転嫁の実施により、コロナ禍以前の水準まで回復し、前期比154.9%増となりました。

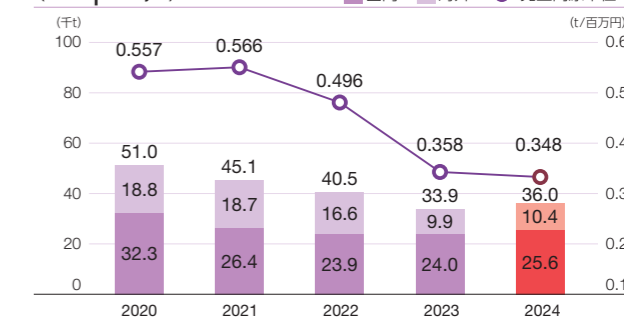
経常利益・経常利益率



売上・営業利益の伸長に加え、為替差益や不動産賃貸料が増加したことから公表値を上回り、前期比132.9%増となりました。

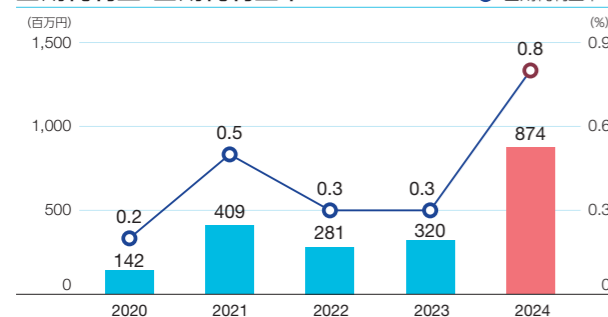
非財務データ(各年5月期) ※国内グループのみの数値。

事業活動でのCO₂排出量(Scope1,2)



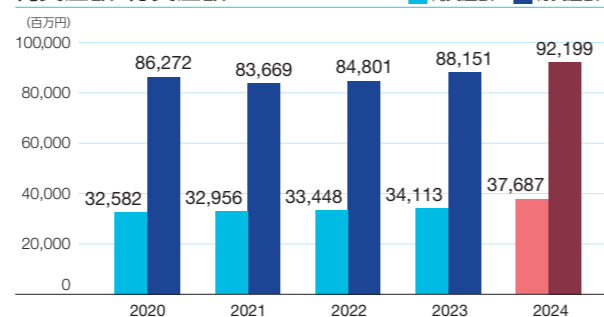
CO₂排出量は前期より2.0千t増えたものの、売上高原単位で換算すると約3%のCO₂排出量を削減することができました。

親会社株主に帰属する当期純利益・当期純利益率



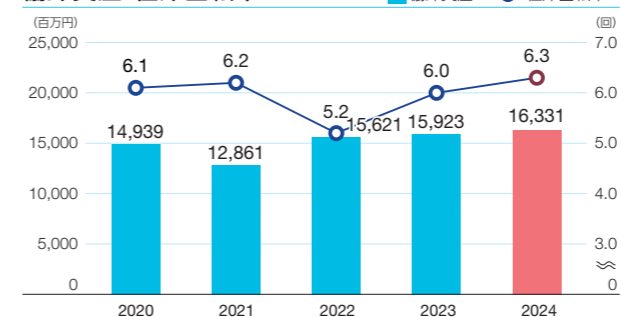
特別損失として持分法適用関連会社の株式譲渡による関係会社株式売却損失引当金繰入額を計上しましたが、売上・各段階利益ともにそれを上回り、前期比172.9%増となりました。

純資産額・総資産額



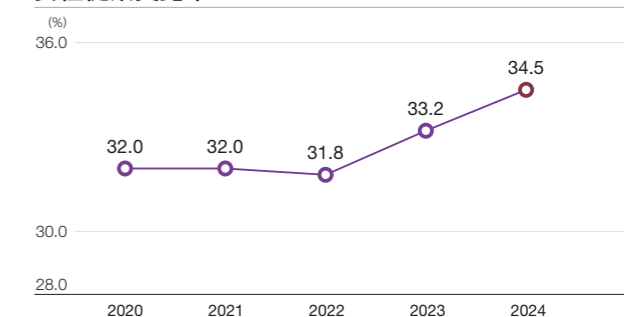
純資産額は、利益剰余金の増加等により前連結会計年度末に比べ35億74百万円の増加、総資産額は有形固定資産の増加等により40億48百万円の増加となりました。

棚卸資産・在庫回転率



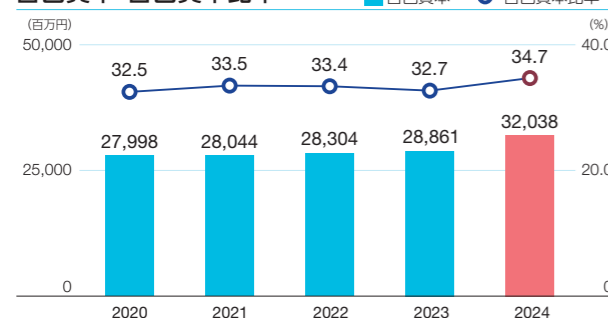
棚卸資産は為替の影響を受け、主に自動車内装事業等で増加となりましたが、実力値では減少しました。引き続き縮減に努めます。

女性従業員比率[※]



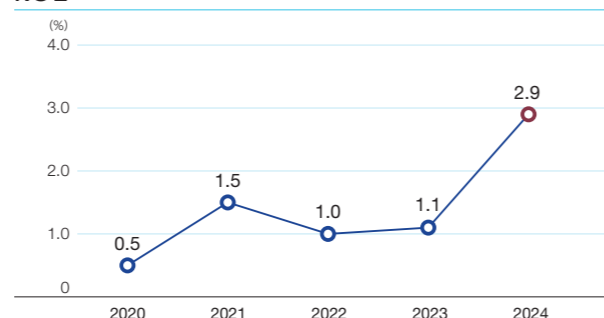
国内グループ従業員の合計は1,608名、そのうち女性従業員は554名。女性従業員比率は34.5%となり、前期から1.3%上がりました。

自己資本・自己資本比率



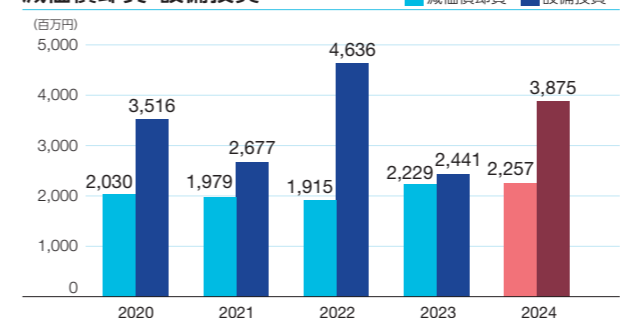
北中米拠点の事業再編による黒字化を実現し、一部の土地や倉庫の売却を実施しました。また、コロナ禍で積み増した有利子負債の圧縮を進めています。

ROE



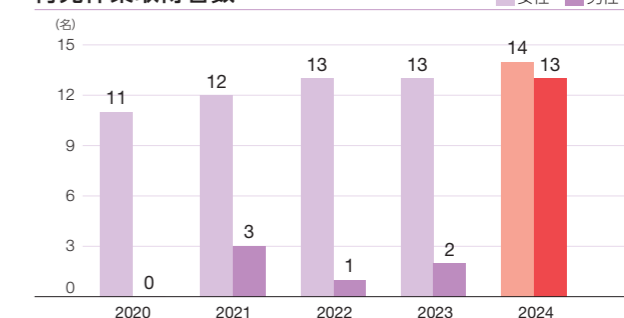
計画を下回ったものの、自動車・車両内装事業やインテリア事業において付加価値の高い分野への取り組みを進めていることから今後3年間での当期純利益の増加を見込み、ROE8.0%を目指します。

減価償却費・設備投資



基幹システム再構築やメキシコ合成皮革新工場への設備投資を計画通り実施しており、今後3年間で投資分の回収を見込んでいます。

育児休業取得者数[※]



働き方改革アクションプラン2023(P50参照)の取り組みにより、男性育児休業取得者数が13名に増加しました。

住江織物の元祖は、米穀商であった村田伝七が1883年に大阪府東成郡住吉村に開いた村田工場。
このささやかな家内工場が、帝国議会議事堂、鉄道、船舶の装飾を受注し、日本の敷物業界の夜明けをひらきました。

1880s	1900s	1930s	1950s	1980s	2000s	2020s	2024		
日本の近代化へ貢献			インテリアを		一般家庭に			世界へオンリーワンの商品を	
日本産業革命	大正デモクラシー	世界恐慌 第二次世界大戦	高度経済成長期 グローバル化進展期		バブル経済 環境問題顕在化 バブル経済崩壊	IT革命 少子高齢化	新型コロナウイルス 感染症の流行	ポストコロナ社会への移行	
History グループ沿革									
<p>1883 村田工場創業 大阪・住吉で手織織物の製作を開始</p> <p>1892 絨毯「倭織(やまとおり)」で当社初の特許を取得</p>	<p>1903 本格的な製織設備を持った住吉工場を建設</p> <p>1913 住江織物合資会社を設立</p> <p>1916 力織機によるカーペットの製造を開始</p>	<p>1930 住江織物(株)を設立</p> <p>1937 河内工場を新設。紡毛紡績を開始</p> <p>1949 東京、大阪、京都証券取引所に株式を上場</p>	<p>1954 日本で初めて、アメリカよりタフティングカーペット機を導入</p> <p>1971 奈良工場(現 住江テクノ(株) 奈良工場)を新設し、住吉工場を廃止</p>		<p>1987 滋賀事業所を新設</p> <p>1994 初の海外拠点であるT.C.H. Suminoe Co., Ltd.をタイに合併で設立</p> <p>1998 住江織物グループ環境対策宣言「KKR+A」を発表</p>	<p>2003 米国にSuminoe Textile of America Corporationを設立</p> <p>2005 中国に住江互太(広州)汽車繊維製品有限公司を合併で設立</p> <p>2013 メキシコにSuminoe Textile de Mexico, S.A. de C.V.を設立</p>	<p>2020 (株)シーピーオーの株式を取得し、子会社化</p> <p>2022 (株)プレテリアテキスタイルの株式を取得し、子会社化</p> <p>2023 グループ理念およびグループ統一ロゴ・タグラインを発表</p>	<p>2024 Suminoe Textile de Mexico, S.A. de C.V.に合皮革新工場を設立</p> <p>健康経営優良法人2024(大規模法人部門)に認定</p> <p>中長期経営目標「SUMINOE GROUP WAY 2022~2024~2027」の後半目標を発表</p> <p>住江織物(株)、(株)スミノエの商号変更についての定款変更が、定時株主総会にて承認</p>	

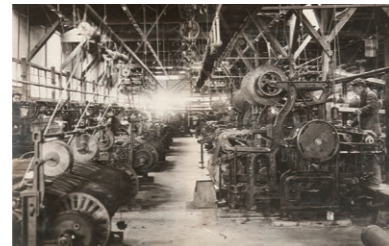
Value
提供価値

1891



● 織物の製造技術が評価
村田工場の技術が評価され、帝国議会議事堂に織物を納入。現 国議会議事堂にも赤絨毯などを納入し続けています。

1913



● 力織機による大量生産の実現
ドイツ・イギリスから技術と力織機を導入し、日本初、機械織モケットの製造に着手。

1957



● 家庭へのカーペット普及に貢献
カーペットは特注品で高級だった当時に、既製品かつ一般家庭でも購入できる価格設定のカーペット「タフトン」を発売。

1980



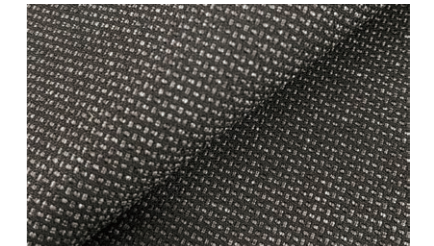
● 国産初のタイルカーペットを製造
モザイク模様を表現できるほか、傷んだ部分のみを敷き替えられる画期的な製品として注目を集めました。

1998



● 24時間消臭加工技術を開発
シックハウス症候群の原因物質や生活悪臭を24時間消臭・分解する「トリプルフレッシュ®」。人々の健康保護に寄与します。

2024



● 環境対応型製品の開発・提案を推進
より再生材比率を高めたタイルカーペットや、自社製造の再生繊維「スミトロン®」を使用した自動車用シート表皮材を実現し、各業界が取り組む社会課題解決の一翼を担っています。

1899



● 日本初、手織りワナモケット製作
従来輸入品だった国鉄の座席シート表皮材の製作を当社が受注。手織りによるワナモケットを実現・納入しました。

1931



● 黎明期の自動車産業に参画
米国のフォード社、ゼネラルモーターズ社が日本で組み立て生産をしていた自動車にカーペット・シート表皮材を納入。

1968



● 836㎡の織通を手織りで製作
皇居宮殿最大の宴会場である「豊明殿」に手織織通を納入。製織に約1万人、完成までに9ヵ月を費やした大作です。

1971



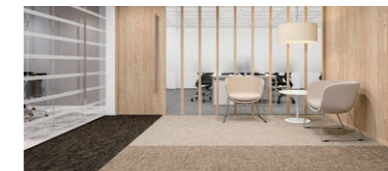
● 無公害カーペット工場を新設
公害が注目されていた当時、新設の奈良工場には排水処理設備を備え、排水による有害物質の流出を防ぎました。

1989



● 再生ポリエステル長繊維を開発
使用済みペットボトル由来のポリエステルチップを50%以上使用した糸「スミトロン®」。省資源化に貢献しています。

2011



● リサイクルタイルカーペットを開発
タイルカーペットを同一製品間で循環させる枠組みを確立。カーペット業界初、新基準のエコマークを取得。

未来へ



● 伝統技術を未来へ継承
事業変革を推進する一方で、日本の歴史的産業である手織り技術を守り、育むことで文化の継承に貢献しています。